



# JIC インフォメーション

第 168 号 2011 年 10 月 10 日

年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F

TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪オフィス: 〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-1-22 フェアステージ大手前ビル 5F

TEL: 06-6944-2315 jicosaka@jic-web.co.jp

ロシア・旧ソ連  
国際交流誌

**秋・冬も魅力たっぷりロシアの旅**  
**Путешествия в Россию**  
**Очаровательная осень и настоящая зима!**

旅行・留学のお問い合わせはいつでもお気軽にJICへどうぞ!  
<http://www.jic-web.co.jp>

twitterでJICをフォローしよう!  
facebook もやってるよ!

— サнкт・ペテルブルグとその郊外にて 秋・冬 —

MAKS2011 添乗記 神保 泰興・・・2-3P  
<連載>「エクメネの最果てへ」—サハ共和国 冬の旅—  
岡本 健裕・・・4-6P  
はじめまして、イリーナです。  
～JIC モスクワ事務所の新スタッフを紹介します・・・7P  
留学情報・・・8-9P

「異国の地ロシアでの生活」田中 勇・・・10-11P  
<書籍紹介>「もっと知りたい通訳ガイドの仕事  
～日本と海外をつなぐ民間外交官」伏田 昌義・・・12-14P  
ペンパル情報・・・15P  
JIC 情報・・・16P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。  
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

# MAKS2011

**添乗記** 神保 泰興

今年のMAKS観覧ツアーも  
お陰様で大盛況でした!!!

去る 8 月 17 日(水)より 21 日(日)まで(※16 日は報道関係者のみ公開)、2年に1度の、モスクワ国際航空ショー MOSCOW INTERNATIONAL AVIATION AND SPACE SALON (MAKS) が開催されました。前回 2009 年に引き続き、私どもジェーアイシー旅行センターでは、2 度目の観覧ツアーを実施し、私、神保が今回も添乗させていただきました。

会場は、モスクワ南東に位置する、ジューコフスキー市にある「ラメンスコエ飛行場」です。モスクワ市内の宿舎から専用バスで 1 時間半ほど。ジューコフスキー市に近づくと、「MAKS」と黄地に青で書かれた案内看板が随所に見えてきます。ジューコフスキー市に入ると、随所に交通整理の警官が立っています。17 日と 18 日は「トレードデー」として、航空機産業やバイヤーなど関係者のための日程になっていて、来場者は限られるはずですが、それでも駐車待ちの長い車列ができていました。

事前に確保していた、入場ゲート近くのバス専用駐車場から会場を眺めると、広い会場にたくさんの展示機が並んでいます。早速ゲートに進むと、まず飛行機に搭乗する時のような、入念なセキュリティチェックを受けます。飲料水などは、すべて一度口にするように求められました。チェックを抜け、入場券を提示すると、「トレードデー」らしく、入場者全員に、名前と所属会社・組織名が書かれたネームプレートが発行されます。

やっとの思いでゲートを抜け、会場を進んでいくと、まず、ロシア製の民間輸送機ツポレフ Tu-204CM やイリュージン Il-76LL などがあります。大型輸送機アントノフ An-124 は機首の積み込み口を大きく開けて、中ではドリンクなどが振る舞われています。それらと共に、アメリカのボーイング 787 や欧州のエアバス A380 も飛来しています。それらと共に、カモフ Ka-32A11 や Ka-52、ミル Mi-28NE といった民間用・軍用のヘリコプターも駐機しています。

民間機・ヘリコプターが展示されているゾーンを抜けると、今度は数多くの戦闘機・爆撃機などが見えてきます。ミ



Su34



アントノフ 124



会場の様子

グ Mig-29K や Mig-31、Mig-35D、またスホーイ Su-27 や Su-30MK、Su-34 などの戦闘機・攻撃機と共に、戦略爆撃機ツポレフ Tu-95MS や Tu-160 も、その大きな翼を並べています。それらのロシア製の機体と並んで、親善訪問で飛来している、アメリカの F-15E 戦闘機、B-52H 戦略爆撃機、A-10 攻撃機や C-130H 輸送機、フランスの戦闘機・ラファールなども仲良く駐機しています。特に B-52H



Su30MK に乗る神保



PAK-FA T-50 (ツアー参加の林 亮様撮影)



コンパニオン

は、ロシア人たちに大人気ようです。東西が厳しく対峙した冷戦時代、B-52H は、当時のソ連を攻撃する核巡航ミサイルを積んで、いつでも出撃できる態勢にあったことを思うと、とても感慨深いものがあります。

基本的に展示機は外から見るだけなのですが、Su-30MK 戦闘攻撃機の前で物欲しそうな眼をしていたところ、偉そうに見えたのか、はたまた熱意が通じたのか、

VIP 客扱いをされて、特別にコックピットに乗せてもらうことができました。

今回のショーの目玉として、かねてよりささやかれていたのは、昨年 1 月に初飛行したばかりのロシア製ステルス戦闘機・PAK-FA/T-50 が初めて一般公開されるらしい、というものでした。

初日 17 日に、プーチン首相が会場を訪れるという話は直前に伝えられており、それにあわせたのか、デモフライトのスケジュールも直前まで二転三転しました。午後になると、会場の警備がにわかに厳しくなり、警官隊が突然警戒線を引き始めたりしました。ほどなく、会場に政府専用機イリューシン II-96 が飛来。着陸してしばらくすると、突然デモフライトが始まりました。いくつかのヘリコプターや民間機のフライトの披露の後、戦闘機スホーイ Su-35 が驚嘆するほどの高い運動性能を見せ付けてくれました。そして、いよいよお待ちかね PAK-FA/T-50 の登場です。試作機 2 機が編隊で飛来、続いてのデモフライトでも力強い姿を見せてくれました。ロシアの最新鋭戦闘機の初お披露目を、ロシアの首相と共に観覧できたこと自体が大変感動的でした。

飛行機の地上展示やデモフライトの他にも、会場には航空機メーカーや、ミサイルその他の搭載機器、またロケットや宇宙服のメーカーなどのブースが並び、コンパニオンの女性がほほ笑みながら、カラフルなパンフレットを手渡しています。そうしたブースに、軍服姿の各国の駐在武官や、スーツ姿の男性が、興味深く足を止めている姿が見られました。展示ブースに設置された、ミサイルメーカーの大きなスクリーンには、悪役に仕立てられたアメリカの FA-18E 戦闘機やイーグリス艦(国籍は架空のもの)を、こちらのミサイルがやっつける、リアルな CG 映像が繰り返し上映されていました。

19 日～21 日の金・土・日は、一般公開日「パブリックデー」となりました。入場料も4分の1になり、多くの親子連れなど、一般市民がつめかけました。シャシリク(串焼き肉)やプロフ(中央アジア風ピラフ)、みやげ物屋などの屋台も並び、子供たちのための遊具が設置された広場なども作られていました。そして、ショーの主役は、軍のアクロバットチーム「СТРИЖИ」や「РУССКИЕ ВИТЯЗИ」などの華やかなデモフライトになりました。子ども達が飛行機を見上げて歓声を上げる中、連れて来られた感のお父さんたちは、夏の青空の下、飛行機よりもビールやシャシリクの方に関心が向いていたようです。

今回の MAKS 観覧ツアーについては、前回同様、企画段階から多くの皆様のご助言をいただきました。そして、多くの皆様にご参加下さり、無事故、大成功で帰国することができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

<おわり>

# エクメネの最果てへ

## —サハ共和国 冬の旅—

### 【第10回】岡本 健裕



馬、馬、ウマですよウマ！…すみません冒頭から取り乱してしまいました。皆さんは馬と聞いたら何を想像なさいますか。日高の牧場でしょうか、ロバのパン屋でしょうか、服部緑地の乗馬センターでしょうか。それとも松風ですか、黒王号ですか。ん、仁川？府中？まあ、趣味は人それぞれであります。

いずれにしても、日本人にとって、馬は乗用や牽引用の動物として真っ先に思い浮かぶのが普通ではないでしょうか。しかしヤクート人にとっては違います。馬といえば栄養源なのです。それはもう、もりもり食べます。というか主食です、馬は。エキゾチックでしょ。

およそ食べ物のことほど、誰にも明解なカルチャーショックを喚起するものもないでしょう。日本人は食事全般をごく自然に「ごはん」と呼びますね。メシにしよう、と言ったその口でスパゲティを食べても平然としています。それほどまでに、我々の食卓は根本からコメ(=飯)を心柱に置いて、あまりにも完成しきっているの、ほかの食品の付け入る隙は全くありません。主食ってすごい！

ヤクート人にとって、このコメに相当するところのがつつり住みついているのが馬なんです。もっとも、彼らが食事全般を「馬」とまで呼んでいるかどうかは知りません。

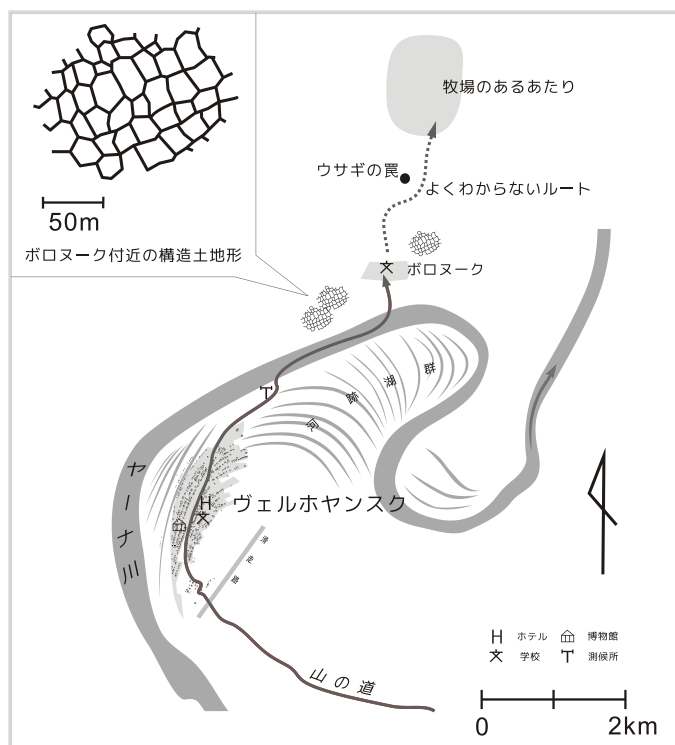
さて、私たち一行は、ヴェルホヤンスクの町から凍ったヤーナ川を車で渡ってボロヌークにやって来たところですが(連載第9回参照)、実はドライブの本当の目的地はさらに先にある牧場なのです。ヤクート人のお腹を充たし、心

を満たす食べ物の生産現場の最前線を、とくと見せてもらいましょう。

熟練ドライバー、アナトリーさんの運転するウアズ(VA3)は、ボロヌークを抜けると変な路面を走り始めました。何となく道のように、あまり道らしくない、はっきりしない轍です。おそらくは冬にだけ使える自由なルートなのでしょう。どう舵を切れば、どこへ行けるのか、全てはアナトリーさん次第です。夏はどうなっているのでしょうか。この辺りの衛星写真をよく見ると、地面が奇妙な多角形のパターンをなしていることに気づきます。これは構造土といって、地面が凍ったり融けたりしているうちに地表面に規則的な凹凸が生じた地形です。何か思い出しませんか、凍ったり融けたりしてできる地形といえば…そう、構造土は周氷河地形(連載第5回参照)の一種なんですね。今は雪が被っていて見えませんが、夏ならばこの構造土の風景が見事に広がっているはずです。

車は疎林に突入しました。相変わらず、道なのかどうかよくわからない、怪しい路面ですが、気にせずぐいぐい走ります。さすがウアズ、踏破性能にかけては世界的に評価の高い四輪駆動車だけのことはあります。ふと、林の中、達人ニコライさんの合図で車が停まりました。全員、車を降りて藪の中へと案内されます。牧場へ行く前に何か見せてくれるようです。

それは罠でした。(と書くとは何やら意味深ですが、)ウサギ捕り用の罠です。仕組みは単純で、1本の丸太をシーソーのように用います。丸太の支点を偏らせておいて、軽い方の一端には針金の輪っかをつけます。その一端を地面





ウサギ罾

近くまで引き寄せて、外れやすいようにほかの木にひっかけます。これだけ。

針金の輪っかにウサギの脚がかかると、丸太が外れてシーソーのバランスが戻り、一方で針金はギリギリ締まり、あわれなウサギはあえなく宙吊りとなります。やがて絶命したウサギは、その場であつという間に冷凍

肉に。なるほどー、よくできています。でも、そんなにうまくいくんでしょうか。ニコライさんの説明を聞いているうちに、私の頭の中にはだんだん「待ちぼうけ※」のメロディが流れてきて水を差すんですが。だってこれ、歌にある「兎ぶつかれ木の根っこ」、の構図そのものですよ？

ニコライさんによると、ここはウサギの通り道なので大丈夫、獲物はちゃんとかかるそうです。確かに 1 羽 2 羽くらいなら、わかります。ホテルの食事にもウサギ料理がありましたしね。でも、同じ道を使い続けて捕まってしまうほど、ウサギも間抜けじゃないような気がしますけど。ほら、罾の横を素通りした足跡があちこちに…。しかし、本当にウサギは間抜けなのでした。後になって、私は自分の浅はかさを決定的に思い知ることとなります。

疎林を抜けると、大きく視界が開けました。なだらかな丘陵を遠景に、薄く雪をかぶった地面が漠と広がっています。これが牧場です。車を降りると、数頭の馬が立っているのが目に飛び込んできました。初めて見る、ヤクート馬の姿です。馬たちは皆、何やら口をもぐもぐさせています。雪の



牧場と異様に丸い馬たち

下の草をほじくって食べているのです。それにしてもどうですか、このまんまるに太った短足の肉体は。彼らを正面から見ると、その特異さがさらに際立ちます。およそ馬とは思えない、コッペパンのようにつぶれた幅広の胴体の断面形！食べるための馬とは、こういうものなのか…。

遠くから馬に乗った人影が一騎、近づいてきました。馬上の人はニコライさんの息子さんです。おや、乗用の馬は見た目が違いますね。ちょっとスマートです。まあ、ヤクート馬である以上、ずんぐり短足なのはもう DNA で決まっていることみたいですけど。それにしても周りの異様にまるっこい馬達は、やっぱり食用という、それなりの意図でもって太らされた結果なのでしょう。

ニコライさんが、馬に乗ってみたいか、と仰いました。えっ私、馬に乗るの初めてなんですけど、どうしよう、…乗ってみたいです。というわけで 1 秒ほど迷いましたが、乗りました。数メートル移動しただけですけどね。たったそれだけでも、楽しい！もう、勝手にニコニコと顔がほころんできます。生き物の背中に揺られるって、イイ。理屈抜きにいいですね！



ヤクート馬に乗る

いすね！いつか、サハの大地を、馬を駆って自由に旅できたら素敵だな。

この寒極でも、自力で餌を見つけて生きていられるヤクート馬たち。立っているだけで、もわーんと湯気が立ち上がっています。すごい生命力。そんなヤクート馬の背にまた

がって、吹きさらしの環境で馬追いの仕事をする人間もまた、凄まじい適応力です。みんな、どうしてそんなに強いんですか。

ニコライさんによると、この辺りの人は、気温マイナス 50℃ 以下でないと、寒いとは言わないんだそうです。今日みたいな 30℃ 程度の日には、暖かいんですって。はっとしました。ニコライさんの言葉に驚いたのじゃありません。私もごく自然に、マイナス 30℃ を暖かいと思ったことに気づいたのです。

以前からなんとなく感じてはいましたが、これで確信しました。「体感温度のインフレ」ってやつは存在するし、それ



ニコライさんの立派なユルタ

は普遍的現象なんだと。どういうことか説明しましょう。私は特に寒さに強い人間ではありません。むしろ、気温プラス 5℃程度で震えているような軟弱者です。でも、冬の北海道を野宿しながら旅したときは、その間だけ、マイナス 10℃までは暖かく感じるようになりました(初めは信じられなくて、温度計が壊れていると思ったものです)。この現象を、私は勝手に体感温度のインフレと名づけています。もっとずっと寒いところへ行ってみても、そのたびに、インフレを体験しました。名だたる寒冷地の住人はよく、ここでは〇度までは寒いとは言わない、なんて言いますが、その通りですね。その場で同じ気温を共有しているうちに、不思議なくらいあっさりとそう思えてしまう。それでもずっと、半信半疑だったんですが、今回はとうとう、世界の寒極までやってきて、やっぱり同じ現象を経験してしまいました。これはもう、地球上で人の定住しているところ、全てがそういうものなのかもしれません。ちょっと立ち寄っただけの旅行者でさえも、1 日、2 日もあれば、寒さの感覚が現地仕様にスライドしてしまう。もしそうだったら、最果ての町を探し求める旅は、温度感覚に関する限り、無駄なことなのでしょうか。ちょっとさびしいな。

「50℃以下になると、吐く息が凍るよ。」とニコライさんは言います。「冬はそれくらいが普通なんだ。けど、最近は暖かい日があるね。以前は 1 月に 30℃台なんて考えられなかった。これは 3 月の気温だよ。」ああ、なんて残念。息が凍るところ、見たかったなあ。天を恨んでも仕方ないですが、どうして自分の滞在日程に限って例外的に暖かい日とぶつかってしまうのでしょうか。でもニコライさんは全然残念そうじゃありません。「そりゃ、寒いよりも暖かい方がいいよ。」ごもっとも。

牧場の片隅に、ニコライさんの所有するヤクート式ユルタ(Юрта)が建っています。博物館(連載第 7 回参照)で見学したのと同じ、チロルチョコの形状をした、厚い土壁の、「動かせない移動式住居」です。中を見せてもらいました。コップや食器がテーブルに載っていて、はっきりと生活感があります。たまに、このユルタに泊まり込みで仕事をする

こともあるのだとか。冬でも暖炉に火を焚くと十分暖かいそうです。寒極の人々の暮らしには、ヴェルホヤンスクという「町」の部分のほかに、こういうプリミティブな単位もあるのです。そしてそれらを全部まとめて支えているのが、馬。まぎれもなく、馬です。極限の地であるこのヤーナ川のほとりで、命を繋ぐ栄養源として、主食として、ほかにどんな生き物が代わりを務められるでしょう。馬がいなくては、人類の最果ては、もっとずっと後退していたに違いないのです。

お土産だ、と言って、ニコライさんが何か白い毛むくじやらの棒を差し出しました。受け取ってよく見ると、爪がついています。ウサギの後ろ脚でした。テーブル掃除に使うとちょうどいいよとニコライさんは言いますが、さて…。そんなわけで、世界で一番寒い大地を元気に蹴っていたウサギさんの脚が今、我が家にあります。ウサギ氏も、まさか自分の脚が遠く日本へ渡ることになるなんて、生前は思ってもみなかったことでしょうね。なんだかもったいないので、まだテーブル掃除には使っていません。



ウサギの脚

もう、外は暗くなり始めてきました。さすがは北極圏、朝と昼と夕方がいっぺんに終わりにかけています。そろそろ、ヴェルホヤンスクへ戻りましょうか。そういえば、いまいちはっきりしない道を通ってきたせいで、現在いる牧場の位置がどのあたりなのか、正確にイメージできません。

アナトリーさんのウアズは、元来た経路と少し違うところを走り始めました。冬の道は海のように自由です。どこをどう進んでも目的地へたどり着けるくらい、アナトリーさんはこのあたりの地理を庭のように熟知しているのでしょうか。でも、これで部外者には道が全然わからなくなってしまいました。

そんな道中、疎林の中で急にウアズが止まりました。エンジンがかかりません。故障みたいです。(つづく)

※作曲: 山田耕柞 作詞: 北原白秋

※掲載写真は北海道新聞大能記者による撮影(ウサギの脚除く)

# はじめまして、 イリーナです!



～JICモスクワ事務所の新スタッフを紹介します

2006 年 4 月から JIC モスクワ事務所で働いていたトカチェンコ・ドミトリー君が、大学院進学のため 8 月末でエストニアのタリンに移りました。9 月からモスクワ事務所で仕事を始めた新スタッフ・イリーナさんを紹介します。イリーナさんはトカチェンコ君の後輩で、今年モスクワ大学を卒業したばかり。JIC で一番若いスタッフです。以下、インタビュー形式でイリーナさんを紹介합니다。よろしくお願いします。

## ——JIC モスクワの新スタッフに応募したのは、どういうきっかけからですか？

トカチェンコさんから電話があり、JICモスクワ事務所が新しいスタッフを探していると教えていただきました。JICではどのような仕事をするのか聞きました。すると興味があれば、履歴書を送って、面接に来てくださいと言われました。当時、日本と日本語に関する仕事を探していました。旅行は私の趣味の一つなので、旅行センターで働くのがよいかなと思っていました。

## ——大学ではどんな勉強をしましたか？ 得意な科目は何ですか？ 反対に不得意なことは？

私の専攻は日本史でした。私が始めて日本に興味を持ったのは、子供のときです。インターネットで日本のテレビドラマや日本についてのビデオをよく見て、日本文化が自分の中に深く残っています。それで大学に入学したとき、日本語と日本史を勉強したいと決めました。

戦国時代に興味がありました。なぜかという、その時代はロシアの日本学ではあまり研究されていない時代だからです。卒業論文では、織田信長と僧侶との関係というテーマを選びました。信長はどうして当時の絶対的な宗教的権威である天台宗・延暦寺を破壊したのか、どうして真宗の石山本願寺を攻めたのかということを研究したのが面白かったです。得意な科目は外国語と文学と歴史です。特に不得意科目はありませんが、哲学には興味を持ってませんでした。

## ——日本について聞かせてください。日本のどんなところに一番魅力を感じますか？ 逆に、嫌いなところはどこですか？

一番魅力を感じるところは横浜です。なぜかは分かりませんが、横浜には東京よりのんびりした雰囲気を持っていると

Меня зовут Ирина.  
Прошу любить и жаловать!

JICインフォメーション  
読者のみなさん、  
どうぞよろしく  
お願いします!



思います。その上、みなとみらい、山下公園、中華街、横浜赤レンガ倉庫、など数多くの魅力的な観光地があります。秋葉原は嫌いなところではありませんが、賑やか過ぎてあまり好きではありません。

## ——日本への留学経験がありますが、実際に日本で 1 年間住んでみた印象はいかがですか？ 日本に対する考えは(留学前と比べて)どう変わりましたか？

この留学を一言で表すと、それは私にとって「一期一会」の滞在でした。日本人とコミュニケーションをし、名所をたくさん見物しました。ただし日本に住んだときには、解決しなければならない問題がたくさん起きました。まず、日本語は母語ではないので、最初は全然わかりませんでした。それなりに大学で勉強してきたのと思うと落胆しましたが、それでも一生懸命がんばりました。本当に良い経験になったとおもいます。

日本に対する考えはどう変わりましたかという質問はむずかしいです。実はというと、日本に対する考えはあまり変わりませんでした。留学に行く前に描いていた日本のイメージと実際の日本は同じでした。しかし、留学前と比べて、自分は何が変わりました。日本人やいろんな国の人に出会うことで、自分の価値観が変わったのだと思います。留学するまでは、自分とはどのような人物なのかというようなことを考える機会がありませんでした。

## ——JIC モスクワ事務所でどんな仕事に力を入れたいですか？

ロシアの皆さんに日本は漫画、アニメ、寿司だけでなく、長い歴史や伝統を持っている国だということを教えてあげたいです。日本の皆さんにもロシアの歴史的なところや素敵な自然などを教えてあげたいと思います。

## ——イリーナさんの将来の夢は何ですか？

将来に大学院観光学部に入学して、もっと勉強を深めたいと思っています。

### プロフィール；

氏名；イリーナ・チスティーリナ Irina Chistilina

年齢；1989 年生まれ (一番若い JIC スタッフ)

住所；モスクワ市

学歴；モスクワ大学付属アジア・アフリカ諸国大学卒業  
青山学院大学に 1 年間交換留学 (09～10 年)



ロシア留学なら JIC  
2,300 名以上の派遣実績

стажировка  
по русскому языку

JIC のおすすめ

# 人気 St. Petersburg の語学研修

LIDEN & DENZ ST. PETERSBURG リデン&デンツ サンクトペテルブルグ校

## 学校紹介

1992 年にスイス資本によってペテルブルグに設立された民間ロシア語専門学校で、国際語学センター協会加盟校でもあります。2003 年秋にはモスクワ校も設立されました。基本はグループレッスンとなり、2 週間ごとにコース開設日が設定されています。2 週間からの受付となります。個人授業は 1 週間から受付可能。ビジネスロシア語など、追加も可能。



2週間から受付可能  
インターナショナルな環境!

イメージ

【ホームステイ】 個室、2 食付または朝食付のホームステイをご用意。ロシア人家庭の中で生活しながら、学校へ通います。共同アパート滞在も可能です。

【条件】 コース開始日など、詳細は別紙案内をご覧ください。

【申し込み】 ご出発希望日の 1 ヶ月前(1 ヶ月以上の研修の場合は 2 ヶ月前)までにお申し込みください。



イメージ



イメージ

DERZHAVIN INSTITUTE デルジャーヴィン・インスティテュート

## 学校紹介

全ロシアプーシキン博物館の協力により設立されたデルジャーヴィン・インスティテュートはサンクトペテルブルグ旧市街の 18 世紀の建物内にあります。受け入れ責任者はアレクサンドル・マホフ氏。グループレッスンとプライベートレッスンがあり、毎月曜日にコースが始まり、1 週間以上の受け付けとなります。ロシア語初心者用のコースもあります。放課後や週末には、文化プログラム(歌のレッスンや民芸品制作レッスンなど)や郊外への遠足も企画されています。



イメージ

おすすめ!  
アットホームな雰囲気

【ホームステイ】 個室、2 食付または朝食付のホームステイをご用意。ロシア人家庭の中で生活しながら、学校へ通います。他にゲストハウスや全ロシアプーシキン博物館併設ホテルも利用可能。

【条件】 グループレッスン、またはプライベートレッスン。コース開始日は月曜日です。初心者の方がグループコースに参加されるときは、毎月第 1 月曜日開始のグループコースにのみお申し込み可能です。詳細は別紙「デルジャーヴィン・インスティテュート」のご案内をご覧ください。

【申し込み】 ご出発希望日の 1 ヶ月前(1 ヶ月以上の研修の場合は 2 ヶ月前)までにお申し込みください。



イメージ



イメージ



イメージ

# 先輩からの一言! ~実際にJICで留学した方々の体験談です~

全てをロシア語で話し、ロシア語で理解をする点が良かったです。少人数のグループレッスンだったので、先生がそれぞれの弱点を指導してくださいました。ホームステイ先で 1 日 3 時間くらい、授業内容の復習・宿題をしました。授業で学んだ表現をホストファミリーと話す際に使うようにしました。うまく話せない時でも、とりあえず「話してみて」と、会話しようという気持ちを後押ししてくださったのが嬉しかったです。(2009 年 R.K.)

教師の皆さんが、とても明るく親切。個人のレベルにあわせて授業を進めてくださり、非常に満足な研修でした。そして教室もトイレも清潔! エクスクールシア(観光プログラム)も充実していて毎日楽しかった。(2008 年 Y.N.)

ホストマザーがとても親切で面倒見がよく、話をよく聞いてくれました。とても楽しかったです。食事は毎日作って、一緒に食べてくれました。いつも温かいもの出そうと努力してくれて大満足でした。(2009 年 S.M.)

勤続 10 年の自分へのご褒美で短期研修に参加しました。ロシアは 2 回目ですが、何せ 15 年ぶり。出発前は不安と緊張で一杯でしたが、楽しいばかりであつたというものの 16 日間でした。

学校は 9:30~13:00 まで。授業では文法を勉強したり、映画を見たり、ロシアについての色々な話を聞きました。授業後は観光・買い物・映画館・・・と、とても充実した毎日でした。

当たり前ですが、学校でも家でももちろんロシア語。しかし、先生もホストファミリーもゆっくり分かりやすく話してくれたので、なんとかコミュニケーションをとることができました。一番うれしかったのは、地下鉄を乗り間違えたときや道に迷った時、お店で金額が聞き取れず慌てた時に、皆親切に助けてくれたこと。ロシア人の優しさを改めて実感しました。普通の旅行ではなかなかできない貴重な体験ができました! (2009 年夏の短期グループ研修参加者の感想より)

JIC では、東京・大阪各オフィスにてロシア語留学のご相談を受け付けています。

実際に留学経験のある JIC の留学カウンセラーが、ロシア最新情報をまじえて、あなたの目的や希望に合った留学先や方法をアドバイスいたします。

遠方の方や時間のない方は、メールや電話・ファックスなどでお問合せください。皆さまからのお問い合わせ、お待ちしております!!

【お問い合わせ】

東京:TEL 03-3355-7295/FAX 03-3355-7290 大阪: TEL 06-6944-2315/FAX 06-6944-2318 E-mail: jictokyo@jic-web.co.jp

## JIC ロシアセミナー・留学相談会 2011

# 映画から読み解く現代ロシア

講師:坂庭 淳史(早稲田大学准教授)

2011年11月19日(土)

会場: 新宿スバルビル B1F スバルホール

第1部 13:30-15:00 講演会  
第2部 15:15-16:45 留学説明会・個別相談会

講師:坂庭淳史 先生 (早稲田大学准教授)

テーマ:映画から読み解く現代ロシア

参加費:無料

お申込み:JIC 国際親善交流センターまで E メール、FAX またはお電話でお申込み下さい。

お申込み期限: 11 月 17 日(木) ただし定員になり次第、締め切らせていただきます。

お申込みの際には、

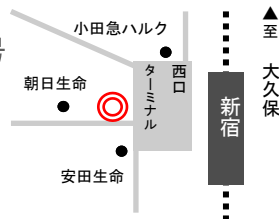
①お名前 ②電話番号、E メールアドレス ③ご職業(学校名または会社名)

④留学・講座に関する個別相談をご希望の方はその旨も お知らせ下さい。

※E メールでのお申込みの際には、件名を「JIC ロシアセミナー参加希望」としてお送り下さい。

隣の国でありながら、日本人にはまだまだ分からない部分の多いロシア。最近 10 年のロシア映画の中から選りすぐりのおすすめ作品を紹介しながら、映像を通して見えてくる現代ロシアの問題やロシアの人々の意識に迫ります。

東京都新宿区西新宿一丁目7番2号  
TEL: 03-3347-2496  
新宿駅西口より徒歩2分

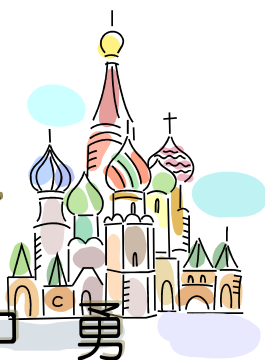


主催: JIC 国際親善交流センター  
TEL: 03-3355-7294 FAX: 03-3355-7290  
E-mail: jictokyo@jic-web.co.jp  
<http://www.jic-web.co.jp/>  
協力: ロシア連邦協力庁  
後援: 在日ロシア連邦大使館

# JICモスクワ通信 vol.24

## 異国の地ロシアでの生活にて

田中 勇



今回のモスクワ通信は…

8/9～29まで インターンシップとしてモスクワ事務所で就業体験をしていた京都産業大学の田中さんに記事を書いてもらいました。短い期間でしたが、どのような体験をしたのか見てみましょう！！

生まれも育ちも日本である私にとって、ロシアでの生活は驚きと感動、そして何かを気付かせてくれる体験ができました。短い期間でしたが、とても密度の濃い内容だったと思います。そしてこんなに自分を成長させてくれる場は日本にないのではないかと思います。

私は普段、朝JICモスクワ事務所の方へ仕事にいき、夜、プーシキン大学にある寮へ帰るというスケジュールでした。土日は休日だったので、ロシアの観光スポット等を友達と一緒に見に行ったりしてきました。日本ではない異国の地なため、普通に生活しているだけでも、いろいろな発見がありました。その中でもロシアの地下鉄は大きな発見のひとつです。まず、はじめに驚かされたのは地下に降りる際のエスカレーターです。50メートルはあるのではないかと、というくらいエスカレーターは長く、しかも動きが速かったの

で、最初は恐ろしく感じました。正直もし私が歳をとってこのエスカレーターに乗ろうとしたらこけて一生乗らないでおこうと思うでしょう。と



事務所に行く途中にある教会

はいえ、たったエスカレーターだけでこんなにツツコムことができるので、やはりロシアはすごくておもしろいなと改めて感じました。しかしエスカレーターで地下に降りたらまさに夢の世界が繰り広げられていました。美術館みたいにあたりが絵画に満ち溢れており、綺麗で色合いもあってかどこか温かみも感じられるすばらしい情景でした。しかも、ひとつひとつの駅に対し、違う絵柄となっているので、あきることのないものとなっています。ロシアだからこその傑作作品なのではないかと思います。地下鉄を一日巡るだけでも大変楽しめるものになっていると思います。

その他に私は一般の人に対しても発見を見つけることができました。それはスーパーで買い物をしたり、ショッピ

ングをしに行ったりする時など普段何気なく行っている際の行動です。地下鉄など人混みの中にいるとき、彼らは肌身離さず貴重品を身につけています。また、夜にぶらぶらと街へ出歩

かなかったり、人通りの少ない道へ行く事はなるべく避けたりしています。このような教えは子どものころから言われています。しかし日本

という国は恵まれた環境にあるので、あまり危ない目にあわず、実際、それらを心掛けてはみるものの、どこかに気の緩みが出て、忘れてしまうことが多いです。それに対し、ロシアの人達は常にアンテナを張り巡らして歩いているような気がしました。治安が悪いせいもあってか、皆自分を守るために必死に生きているなと思います。なので、もちろん今日本で指摘されている駅の中、大音量で音楽を聴いたり、夜、外にでて友達とわいわい騒いだりしている人達なんていません。つまりロシアの人達は自分で自分の身を守らないといけないという思いが日本人よりも強いのです。私は恵まれた環境にいたせいか、こういった行いが欠如していました。ロシアは私にとって忘れかけていた本来の人間の姿を思い出させてくれました。

私がロシアの生活をしていてものすごく感じ

たことがあります。それは自分が日本人だということです。あたりまえのことなのですが、ロシアという異国の地において



寮にて友達と 筆者:後列右から2番目



ヴィリヤーエヴォ駅

さらに思いました。日本にいたとき、ショッピングなどをして



ノヴォズネツカヤ駅の前にある噴水

いて外国の方をみかけたら、めずらしい目でみてしまうでしょう。それは外見などが全然違って見え、どこの国から来たのだろう、また彼の住んでいる文化とはどんなものなのだろうかなどと考えてしまうからです。もちろん目の色がきれいであったり、背が高かったりして、みとれてしまうこともあります。とりあえず興味本位でみてしまうのです。しかし私達がロシアで買い物などをする時、相手の視線をものすごく感じます。特にロシアでは日本料理が人気で、お寿司をチェーン店にしたお寿司バーが建っていたり、うどんやかつ丼など日本人がよく食べるようなメニューを出したりしています。またロシアでは日本のアニメが人気で日本のマンガを読んだり、日本のアニメキャラクターのコスチュームを着たりしている人たちもおられます。そのため、日本に対する関心度が非常に高いのです。ですので、余計に感じてしまうのですが、こういう立場になるとあらためて自分は日本人だと思ってしま



スズダリの風景

まいます。しかし日本人の私でもいざ日本のことを聞かれると、なかなか応えられないということがありました。あるロシアの方が私に日本の作家や文化について語ってくれた時、私でもわからないような内容をバンバン話しておられました。さらに彼から日本の文化や作家などについていろいろ質問されたのです。しかし私はそのことについて全くの無知だったため、応えることができませんでした。その時私は日本人なのに日本のことをあまりわかってないじゃないかという恥ずかしさと悔しさが残りました。勉強をするため、または仕事をするためにロシアへ行くのはすごく良いことです。しかしその前に自分の愛すべき母国日本のことをもっと知る必要があるなどこの出来事を通して感じました。

このようにロシアでは日本で味わえない経験をたくさんすることができました。ロシアの地下鉄や建物、そして料理

など、今までみたことないものばかりで、毎日が発見と感動の連続だったと思います。そして特に私がこの3週間を通して感じたのがロシア人の人に対する接し方です。初めプーシキン大学の寮におられるロシア人は私と出会った時、無愛想で、いつも怒ってにらんでいるような目で私をみてきました。日本にずっと住んでいたこともあつてか、あまりこういった経験がなかったので、どうしてこんなに怒っているのだろうかとか、なんか悪いことでもしたのかなとか思ったりしていました。あいさつを交わす際でも、すごく冷たい態度をとってきたり、話しかけようとしたら、そっぽをむかれたりされたときもありました。しかし2週間ぐらい経ち、互いのことがそれぞれわかってくると、すごくフレンドリーに接してくれたのです。今まで聞くこともできなかった趣味



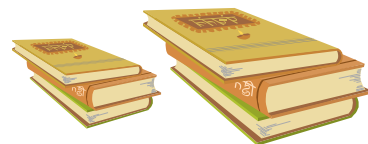
航空ショーMAKSの会場にて

や勉強などの話に意気投合し、最終的にはジョークなどを交わしあう仲になりました。そして私がもうすぐ日本へ帰ることを伝えたら、すごく別れを惜しんでくれました。このようにロシアの方たちははじめ初対面に対し、壁をつくるかのように冷たい態度をとります。しかし、徐々に打ち解け合い始めると、すぐに仲が深まっていき、かけがえのない親友へとなっていきます。私はロシアで生活してみてそういった方が多いと思いました。しかし私はその方がコミュニケーションをとるうえで非常に良いことがわかりました。このような接し方をしてもらったおかげで、ロシアでは裏表なく、自分の言いたいことをストレートに述べることができます。つまり、日本人同士と話すときは少し気を使ったりして話したりするのですが、ロシアではそういったことがないのです。私もそうだったのですが、ロシアの人の第一印象はすごく恐くて冷たい感じがします。しかし実際はとても優しく、なんでも打ち明けられる寛大な人たちだと思いました。

ロシアで3週間生活をして、時には大変なこともあったり、辛いこともあったりしました。しかしそれ以上にいろいろな発見や感動がありましたし、いざとなったら、ロシアの友達に助けってもらえることもできました。そして今となってそれはかけがえのない大切な思い出となっています。私はこのロシアという国で生活することにより普段何気ない行いがとても幸せに感じられるのをとてもうれしく思います。

<おわり>

# 書籍 JIC オススメの 書籍紹介 コーナー



## 「もっと知りたい通訳ガイドの仕事 ～日本と海外をつなぐ民間外交官～」

プロの通訳ガイドさん「通訳案内士」に関する書籍のご案内です。通訳案内士になる為にはどうしたら良いのか、どんな知識を必要とするのか、プロならではの体験などなど。とても興味深い内容です。この機会に「通訳案内士」の世界をのぞいてみませんか？

「通訳案内士」という国家資格をご存じだろうか。日本を訪れる外国人旅行客につきそい、外国語で旅行案内を行うプロの通訳ガイドさんが通訳案内士だ。国土交通省(観光庁)が毎年 1 回実施する国家試験に合格した人だけが、通訳案内士を名乗り、報酬を受けてガイド業務を行うことができることになっている。現在、日本では、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、韓国語、タイ語の 10 の言語のガイドさんたちが活躍している。

通訳案内士試験は一次と二次に分かれる。一次試験では、「語学」の他に「日本地理」「日本歴史」「産業経済政治および文化に関する一般常識」の筆記試験があり、それを突破した人が二次の口述試験に進むことができる。合格率の平均は 12.9%(2010 年)とかなりの難関だ(合格率は語学によってバラつきがある。ちなみにロシア語の合格率は 11.8%)。毎年 8000 人前後がトライし、その半数以上が英語での受験だから、ガイドさんの圧倒的多数は英語ガイドだ。2010 年で登録されている通訳案内士の数は表のとおり。



### 通訳案内士登録者数 (2010 年)

|        |          |
|--------|----------|
| 英語     | 9,953 人  |
| 中国語    | 1,678 人  |
| 韓国語    | 730 人    |
| フランス語  | 629 人    |
| スペイン語  | 618 人    |
| ドイツ語   | 489 人    |
| ロシア語   | 228 人    |
| イタリア語  | 136 人    |
| ポルトガル語 | 84 人     |
| タイ語    | 14 人     |
| 合 計    | 14,559 人 |

登録者の 3 割くらいだと言われている。通訳ガイド業務は専門性が高く仕事がハードな割に安定した就業機会が少なく、それだけで生計を立てるには、よほどの覚悟と努力

登録者総数 14559 人中、約 7 割の 9953 人が英語ガイドで、中国語(1678 人)、韓国語(730 人)と続く。ロシア語は 228 人だ。試験に合格しても、実際にはガイド業務を行わず、会社勤めしている人も多いので、兼業も含めて通訳ガイド業務に従事している人は、

が必要なのだ。「全天候対応型日雇い季節労働者」と言われる所以だ。

### 「観光立国」へ、まだまだ足りない通訳ガイド

にもかかわらず、通訳案内士資格は近年、重要度を増し、注目を集める国家資格となってきた。日本政府は、2003 年に「観光立国」の大方針を掲げ、2010 年までに訪日観光客 1000 万人をめざして Visit Japan Campaign を展開してきた。2008 年には国土交通省の下に観光庁が創設され、新たに「訪日外国人 3000 万人プログラム」が提起された。2013 年までに訪日外国人数を 1500 万人、2016 年までに 2000 万人とし、将来的には 3000 万人の外国人客を日本に迎え入れようという野心的な計画だ。計画が順調に進めば通訳ガイドの数はまだまだ足りず、質の高い有資格ガイドをいかに増やすかが 3000 万人プログラム実現のための重要課題の一つとなっている。

### 原発事故のダメージ甚大、訪日旅行しばらくは停滞

訪日外国人客は、リーマンショックによる経済危機で 2009 年は 679 万人と落ち込んだものの、2010 年には 861 万人と過去最高を記録し、1000 万人突破も間近と思われた矢先、本年 3 月 11 日に発生した東日本大震災と福島第一原発事故で訪日外国人客は再び急減した。とくに原発事故によるダメージは大きく、一時は日本に滞在する多くの外国人が国外に緊急避難する騒ぎとなり「フライ人」(flyjin)という新語まで生まれた。日本政府と巨大電力会社の「想定」を無視した強引な原発推進計画とずさんな事故対応が被害を拡大し、国内のみならず諸外国の不信と不安を高めていることは間違いない。訪日外国人客にとって大きな魅力の一つだった日本観光の安全と安心は原発事故によって大きく損なわれてしまった。旅行業の発展にとって、平和と安全な社会環境が不可欠なのだと思える今日この頃だ。

震災から 7 カ月が過ぎ、中国、台湾を中心に訪日客は少しずつ



回復の兆しを見せているが、本格的な回復にはまだほど遠い。訪日観光客1000万人突破の目標達成は数年先に延びそうだ。ガイドさんたちも3月以降仕事が激減して、非常に困難な時期を過ごしている。ロシア・インバウンド業務に携わる JIC としても何とか少しでも訪日客を増やすために需要回復に取り組みたいと思う。

## それぞれに面白い体験記

昨年10月に出版された本書は、本来なら、訪日客1000万人突破を見込み、次は1500万人をめざして益々注目が集まる通訳案内士の業務について広く一般に知ってもらうために、きわめて時宜を得た書物となるはずだったが、原発災害によって、後景に退いてしまった観は否めない。とはいえ、長い目でみれば、通訳ガイドの需要は今後も伸び続けるだろうし、通訳案内士の業務は、表題にあるとおり「日本と海外をつなぐ民間外交官」として、ますます重要度を増すに違いない。

本書は、基本的に通訳案内士の資格取得をめざす人のために、そのハウツーを提供するために編まれているが、通訳ガイドさんの体験記が中心となっており、一般の人が読んでも十分に面白い読み物となっている。



第1章「通訳ガイドって何をする人？」では、通訳ガイドの業務を外観している。面白いのは、第2章「通訳ガイドの現場より」、第3章「新米通訳ガイド奮闘記」だ。英語から中国語、タイ語まで、各言語計20人の現役ガイドさんがそれぞれの体験に即して通訳ガイドの仕事の大変さや、困難を乗り越えて得

たお客様との心のつながり、仕事の喜び、各言語の学習法などを語っている。

## 通訳ガイドは専門知識と高度な「人間力」が必要

通訳ガイド業務は外国語が話せるだけでできるほど簡単なものではないことが、本書を読めばよくわかる。外国語でコミュニケーションができることはもちろん大前提だが、同時に、日本の歴史や社会、文化についての深い知識が求められる。たとえば、1万円札に描かれている福沢諭吉の説明から、慶応大学の話や、明治維新の話に発展したりもするのだ。お客様の「これは何?」、「これはなぜ?」に答えるだけで、日本の歴史、文化、日本人の考え方など、あらゆるものに話がおよんでいく。

しかも、観光地に着けば入場券を買うために先に窓口まで走り、食事のときは料理内容を説明しつつ自分も素早く食べ、グループ客の場合は迷子を出さないように人数を常に確認し、移動中は客を飽きさせないために話題を提

供したり歌を歌ったりもしなければならない。通訳ガイドの仕事は、通訳、教師、添乗員、バスガイド、エンターテイナー、苦情処理係、セラピストなどなど、あらゆる要素が入り混じったきわめて高度な「人間力」が必要とされる業務なのだ。

日本では「通訳」というときわめて高度な専門職で、「ガイド」というと何かしら専門的でないイメージで見られているが、通訳ガイドの仕事も通訳に劣らず高度な専門職であり、時には単なる通訳より大変な仕事であることがよくわかる。

## 見直し迫られる通訳案内士制度



訪日外国人3000万人プログラムの実現に向けて、通訳案内士不足が予想される中で、現在の通訳案内士制度の問題点も浮かび上がってきている。

まず第1に、これは2008年8月の調査だが、登録者のうち実際に就業しているガイドは兼業を含めて26.4%、ガイド専業では10.2%にしかない。うち38.8%のガイドが年収100万円未満だ。つまり、ガイド業務をやりたくても職業として成立せず、登録者に比べて稼働者が非常に少ないのが実態だ。

第2に、2010年の訪日外国人客861万人のうち、韓国244万人、中国141万人、台湾127万人、香港51万人と、アジア系が75%を占めているにもかかわらず、通訳案内士の68%が英語ガイドというミスマッチ。

第3に、都道府県別の登録者数では、東京、埼玉、神奈川など首都圏と、大阪、京都など関西圏が圧倒的に多く、それ以外の地方では非常に少ないこと。そのため地方都市の案内では東京や大阪からガイド同行で対応するしかなく、ガイド料が割高になる一因となっている。

最後に、これが一番の問題だが、現行の通訳案内士法は、資格を持ち登録した通訳ガイド以外のガイド行為を禁止する「業務独占」をうたっているが、実際には無資格ガイドが事実上野放しになっていることだ。急増しているアジア諸国からのツアーのうち9割以上が日本の旅行社を経由せず、いわゆる「民族系旅行社」の主催で、本国から同行する添乗員や日本在住同国人による無資格ガイド行為があとを絶たない。これは韓国で問題になった例だが、中国人観光客に同行した中国人ガイドが「韓半島はもともと中国の一部で、属国だった。韓国の古い文化はみな中国が教えてやったものだ」と公言してろくにガイドングせず、土産物屋を渡り歩いてチップ稼ぎに専念するといった例が多発し、韓国政府が激怒したことがある。似たような状況は日本でも頻発している。

無資格ガイドがはびこるのは、その方がガイド料を安く

抑えられるという経済的理由と、やはりネイティブの方が圧倒的に会話能力に優れており、気心も知れているから安心だという理由からだ。現地旅行社や外国人客からネイティブガイドをリクエストする声は極めて根強いものがある。

また、その一方で、(これは日本人、外国人を問わず)無資格であっても、豊富な日本知識を持ち、ガイドとして極めて有能な人が結構たくさんいることも事実だし、有資格ガイドであっても会話能力が弱く、客からクレームを受けるといったケースがあるのも事実だ。



現在、制度見直しの検討が観光庁を中心に進められているが、通訳ガイドの人数を拡大するという課題が、無資格かつ低レベルのガイドの跳梁を拡大することがないように何らかの規制を維持することと、いかに高い質の通訳ガイドを育成するか、ガイド業務で生計が成り立つ環境をいかに整備するかという観点で有資格ガイドに一定のインセンティブを付与することが必要だと思われる。そのような方向で制度改革の議論が進むことを、訪日外国人客の受入事業に携わる者の一人として切に願うものである。

(伏田昌義)

書名; もっと知りたい通訳ガイドの仕事～日本と海外をつなぐ民間外交官

編集; JFG 全日本通訳案内士連盟

発行; 法学書院

定価; 1600 円 + 税

## 「全力疾走、全力投球～追悼・吉田勝次さん」

前号で紹介したように、JIC 国際親善交流センターの専務理事だった吉田勝次さんが昨年2月に逝去されてから1年半がたちます。吉田さんと親交のあった友人たちが協力して、このほど追悼集が刊行されました。ご希望の方は、JIC までご連絡ください。⇒ [fushida@jic-web.co.jp](mailto:fushida@jic-web.co.jp)

書名; 全力疾走、全力投球～追悼・吉田勝次さん

編集; 吉田勝次さん追悼集編集委員会

発行; 株式会社 にげん出版

定価; 3000 円 + 税

## 語学の秋 A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z JIC ロシア語講座 後期 10月中旬より始まります!

【東京】

受講料: 全 17 回 51,000 円

定員: 1 クラス 4～8 名程度

会場: 国際親善交流センター 東京オフィス(東京・四谷)

お問い合わせ: 03-3355-7287

【大阪】

受講料: 全 15 回 35,000 円

定員: 1 クラス 5～10 名程度

会場: 国際親善交流センター 大阪オフィス(大阪・天満橋)

お問い合わせ: 06-6944-2315



ロシアの名匠セルゲイ・ボドロフ監督が  
国境なき未来をさぐる、  
愉快でカワイイ未体験異文化コメディ!

## ヤクザガール 二代目は10歳

ДОЧЬ ЯКУДЗЫ

懸賞金は1000万ユーロ!

行方不明の二代目を巡ってロシア国中が大騒ぎ!

STORY: クマのぬいぐるみを抱いた可憐な少女ユリコ。

暴力団組長の孫娘として育った彼女は、身辺に危機迫る祖父のすすめで海外留学へ。ところが、悪天候で搭乗機は緊急着陸。

敵対する組織の配下に追われ、ユリコはひとり見知らぬロシアの街へ飛び出した!

途中、海辺で倒れていたロシア人青年を助けたことから一緒に逃げることに。

敵と味方が入り乱れた和洋折衷、摩訶不思議なバトル・ロワイヤルが黒海沿岸に展開する!

[yakuza-girl.com](http://yakuza-girl.com)

10/22(土)ロードショー

銀座三越先・歌舞伎座手前  
銀座シネパトス  
03 (3561) 4660  
<http://www.humax-cinema.co.jp>

新阪東南口2分甲州街道沿い・コマショップ左  
新宿K's cinema  
03 (3352) 2471  
<http://www.ks-cinema.com>

全国順次公開予定 第七藝術劇場(大阪)・シネマスコレ(名古屋)ほか

# ロシア(旧ソ連)よりペンパル募集!

## お友達をつくりましょう!

①Name ②Sex ③Born(Age) ④Address ⑤E-mail  
⑥Occupation, Hobby ⑦Language

① Sakura (nickname) ② Female ③ 1992 ④ Ukraine, Pavlograd ⑤ [SAKURA@netplus.dp.ua](mailto:SAKURA@netplus.dp.ua) ⑥ Rock, Metal, Painting, Singing, Dance, Anime, Manga, Japanese language, Japanese culture ⑦ Russian

① Ivanov Artur ② Male ③ 1992 ④ Russia, Yakutsk ⑤ [kitsunex13@mail.ru](mailto:kitsunex13@mail.ru) ⑥ Computer game, Travelling ⑦ Russian, English

① Rebekina Natalia ② Female ③ 1979 ④ Russia, Surgut ⑤ [natasha-rebeka@mail.ru](mailto:natasha-rebeka@mail.ru) ⑥ Literature, History, Electronics ⑦ Russian, English

① Zauzolkava Ekaterina ② Female ③ 1995 ④ Russia, Artem ⑤ [zauzolckowa@yandex.ru](mailto:zauzolckowa@yandex.ru) ⑥ History, Literature, Music, Foreign languages, Travelling ⑦ English, Russian

① Shakhova Tatiana ② Female ③ 1979 ④ Russia, Novosibirsk ⑤ [t.v.enina@gmail.com](mailto:t.v.enina@gmail.com) ⑥ Anime, Manga, Japanese language and culture ⑦ Russian, Japanese

Davydova Ekaterina ② Female ③ 1989 ④ Russia, Fryazino ⑤ [giza-2000@mail.ru](mailto:giza-2000@mail.ru) ⑥ Computer, IT, Sewing, Travelling, Studying languages ⑦ Russian, English

① Vazhaeva Olga ② Female ③ 1990 ④ Russia, Mglin ⑤ [Olya.vazhaeva@yandex.ru](mailto:Olya.vazhaeva@yandex.ru) ⑥ Information technology, Japanese culture, Anime, Manga ⑦ Russian

① Danilevich Alexey ② Male ③ 1986 ④ Russia, Moscow ⑤ [alexeygarm@gmail.com](mailto:alexeygarm@gmail.com) ⑥ Sports, Travelling, Theater, Rock music, Oriental culture ⑦ Russian, Japanese

① Knestyapin Maxim ② Male ③ 1986 ④ Russia, Moscow ⑤ [micstur86@mail.ru](mailto:micstur86@mail.ru) ⑥ Painting, Reading, Music ⑦ Russian

① Tarasenko Alina ② Female ③ 1992 ④ Russia, Moscow ⑤ [tarasnata@rambler.ru](mailto:tarasnata@rambler.ru) ⑥ Music, Painting, Anime ⑦ English, Russian

① Veselov Andrey ② Male ③ 1989 ④ Ukraine, Crimea ⑤ [kisargenus@gmail.com](mailto:kisargenus@gmail.com) ⑥ Martial arts, Kendo, Sports, Traveling, Films, Music, Football, Historical, Tattoo, Psychology, Computers ⑦ English, Russian

① Artykov Alexandr ② Male ③ 1987

④ Russia, Desnogorsk ⑤ [al\\_ar2kov@mail.ru](mailto:al_ar2kov@mail.ru) ⑥ Computer technology, Electronics, Cooking, Gothic, Cyber-punk, Reading ⑦ Russian, English  
① Kuznetsova Ekaterina ② Female ③ 1977 ④ Russia, Nizhny Novgorod ⑤ [post\\_nn@mail.ru](mailto:post_nn@mail.ru) ⑥ Collecting stamps ⑦ English, Russian

① Petrov Konstantin ② Male ③ 1983 ④ Russia, Komsomolsk-na-Amure ⑤ [mrmrkot@rambler.ru](mailto:mrmrkot@rambler.ru) ⑥ Fishing, Internet, Computer, Fantasy, Ethnography ⑦ Russian, English

① Kachikovskiy Sergey ② Male ③ 1990 ④ Russia, Moscow ⑤ [lsergey9012@mail.ru](mailto:lsergey9012@mail.ru) ⑥ Japanese culture, Russian-Japanese relation, World economy, History, Western & Oriental philosophy, Japanese language, Japanese art, Karate ⑦ Japanese, English, Russian

① Zinchenko Dasha ② Female ③ 1990 ④ Russia, Tutaev ⑤ [zoorain0@gmail.com](mailto:zoorain0@gmail.com) ⑥ Photography, Journalism, Poetry, Aikido, Music ⑦ English, Japanese

① Zhdankina Victoria ② Female ③ 1993 ④ Russia, Magadan ⑤ [uolter.vlada@bk.ru](mailto:uolter.vlada@bk.ru) ⑥ Music, Painting, Studying languages, Ancient languages, Movie, Computer game, Anime, Manga, Drama ⑦ English, Russian

① Popova Evgeniya ② Female ③ 1986 ④ Russia, Monchegorsk ⑤ [TrashtaBars@yandex.ru](mailto:TrashtaBars@yandex.ru) ⑥ Reading, Sports, Music, Hiking ⑦ Russian, English

① Vartikyan Marianna ② Female ③ 1991 ④ Ukraine, Kharkov ⑤ [yuna-rikku@rambler.ru](mailto:yuna-rikku@rambler.ru) ⑥ Playing the piano, Dance, Anime, Manga ⑦ English, Russian

① Zlydneva Elena ② Female ③ 1992 ④ Russia, Kurgan ⑤ [zlyidnev@mail.ru](mailto:zlyidnev@mail.ru) ⑥ Tea culture, Go, Rock, Anime, Origami, Intellectual game, Fantasy ⑦ Russian, English, French, Japanese

① Vlasova Ekaterina ② Female ③ 1993 ④ Russia, Nizhnekamsk ⑤ [happy300193@yandex.ru](mailto:happy300193@yandex.ru) ⑥ Ethnography of Japan, Tennis, Japanese language, J-Pop, J-Rock, Drama, Photography ⑦ English, Russian

① Kobazeva Mikaela ② Female ③ 1997 ④ Russia, Novocherkassk ⑤ [ayachannofan@yahoo.com](mailto:ayachannofan@yahoo.com) ⑥ Music, Fashion, Anime, Manga ⑦ Russian, English

① Sapareva Dzhemma ② Female ③ 1992 ④ Belarus, Vitebsk ⑤ [djemma92@mail.ru](mailto:djemma92@mail.ru) ⑥ ? ⑦ Russian, French

① Turitsyn Dmitry ② Male ③ 1995 ④ Russia, Krasnodar ⑤ [dmityrturicyn@yandex.ru](mailto:dmityrturicyn@yandex.ru) ⑥ Cosplay, Internet, Music, Movie ⑦ Russian, English, Japanese





# 10~1月の予定

10月11日 JIC 東京 ロシア語講座スタート!  
 10月14日 JIC 大阪 ロシア語講座スタート!  
 11月19日 JIC 東京 ロシアセミナー  
 12月10日 JIC 東京・大阪 留学相談会  
 12月30日~1月4日 年末年始休業  
 2012年  
 1月14日 JIC 東京 留学相談会  
 1月20日 長期留学4月出発生申し込み締め切り

最新情報は JIC のホームページに  
 随時掲載いたします。ご確認ください!

## ◆◆編集後記◆◆

台風や残暑に悩まされたすっきりしない季節が終わり、  
 爽やかな空気が心地よい秋の到来です!!

真っ青な空に映える白い雲がとても印象的な秋晴れ。  
 朝晩冷えますが、アウトドア派の方には屋外で過ごすの  
 がとても気持ち良い季節ですよ。旅行に出かけたり、ス  
 ポーツをしたり、週末に温泉へ行ってみたいするのも良い  
 ですね。インドア派の方は、読書や DVD 鑑賞など、秋の  
 夜長を楽しむにはぴったり。また、秋の味覚をふんだんに  
 使った料理を作ってみたり、芸術に触れたい方はゆっくり  
 と美術館めぐりをするのも良いですね。読者の皆さんも  
 「楽しく・美味しい・素敵な秋」をお過ごしください!!

(JIC 東京 白井 真理奈)

## \* \* JIC のロシア語留学・研修 \* \*

### ロシア語長期留学4月生・募集中

【期間】2012年4月より10ヶ月

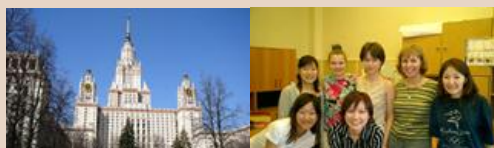
【締切】2012年1月20日

モスクワ国立大学 579,000 円 (授業料 10 ヶ月)

サクト・ペテルブルグ国立大学 585,000 円  
 (授業料 10 ヶ月)

ウラジ 木村極東連邦大学 314,000 円  
 (授業料 10 ヶ月)

\* 上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代  
 金及び取得手数料などががかかります。



### ロシア語グループ&個人研修 (随時募集)

リデン&デンツ スイスの会社出資のロシア語学校  
 個人・グループレッスン。モスクワとペテルブルグにあり、  
 インターナショナルな雰囲気。初心者より上級者まで。  
 2週間より可能。基本はホームステイ 2 食付。詳細はパン  
 フレットをご覧ください。

#### デルジャーヴィン・インスティテュート

全ロシアプーシキン博物館の協力によりペテルブルグに設  
 立された学校で、18世紀の建物内で授業が行われます。ア  
 ットホームな雰囲気でお勧めです。グループレッスン、1 週  
 間より可能。基本はホームステイ 2 食付。詳細はパンフレ  
 ットをご覧ください。

### ロシア語個人研修 (随時募集)

- ☆モスクワ・ダリバス社 1週間~4週間 (ホームステイ 3 食付)
- ☆モスクワ大学 2週間~長期 (ホームステイ朝食付/大学寮)
- ☆ペテルブルグ大学 1ヶ月~長期 (大学寮)
- ☆ウラジオストク極東連邦大学 1週間~長期 (ホームステイ 2 食付/大学寮)
- ☆ビジット生活体験コース (ホームステイ 3 食付)
- ☆ハバロフスク外国語教育センター GEO (ホームステイ 2 食付)

#### ◆ロシア留学旅行相談 (東京・大阪オフィス◆)

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。

お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 10-18 時 03-3355-7294/7295

大阪事務所 平日 10-18 時 06-6944-2315

※事前にご予約ください

留学・研修各種パンフレットは JIC へ  
 ご請求ください。留学・旅行相談お気軽に!

## ~Jクラブ (JIC友の会) のご案内~

JIC インフォメーションを年4回、また JIC のイベント案内をもれなくお届けします。  
 ご希望の方には入会案内をお送りいたしますので、ご連絡ください。会費は無料です。  
 国際親善交流センター

